

基本理念	基本目標	分野	福祉課題	福祉課題の実情	具体的な取組み（条件づくり）	校区社協としての取組（継続含む）
明るい未来を共に築いていく	お互いに助け合い、みんないきいき健やかに	高齢者・障害児者について	高齢者の孤立防止や社会参加、健康や体力維持に関すること	<ul style="list-style-type: none"> 閉じこもって人との接触を好まない高齢者への対応が難しい 老人会を世話をする人、加入する人が減ってきている 高齢者の方々が気軽に集まれる場所が少ない 敬老のお祝い対応等、個人情報の問題で働きかけが難しいケースが増加 体力の低下でサロンに行けない高齢者が増加している 	<ul style="list-style-type: none"> ささえりあ帯山や行政との連携（サロン等での体力測定、専門職による講話等） 地域でのサロンや元気クラブ等、地域の通いの場の立ち上げ・積極活用 地域活動への参加や繋がりの大切さなどをサロンを通じて啓発 サロンや老人会についての内容が分かるよう周知（社協だよりで情報発信） 課題解決のためにお互い様のまちづくり研修会へ毎年参加 	<ul style="list-style-type: none"> 声かけなど、日頃のコミュニケーションを密にする 老人会は何をしているか、分かりやすく周知する 百歳体操に継続参加してもらう 小さいサロンを高齢者同士で立ち上げる 町内を超えて集える場を整備する 高齢者にとって楽しめる魅力的な行事を継続する 老人会と子ども会の連携を考える 公的機関につなぐとともに一緒にサポートする（横の関係強化）
			高齢者の生活課題	<ul style="list-style-type: none"> ごみ出しが困難な高齢者が増加している 免許返納後の移動手段の確保が難しい 経済的自立が困難、あるいはお金の管理ができない高齢者の増加 虚弱な高齢者が多くなっているが、介護保険まで繋がらない人が増加 	<ul style="list-style-type: none"> 3校区（託麻原、帯山、帯山西校区）合同地域ケア共同推進会議の活用 高齢者サロン等を利用して、体力維持の運動に関する情報を提供 地域住民の生活支援ニーズを調査 	
			認知症高齢者に関すること	<ul style="list-style-type: none"> 個人情報の問題があり認知症高齢者に関する状況把握が難しい 高齢者同士のトラブルの原因が認知症の場合があり、解決が難しい 	<ul style="list-style-type: none"> ささえりあ帯山との連携（認知症の事例検討会、認知症サポーター養成講座の活用） 認知症サポーター養成講座の開催（小学生・企業など） 警察署やささえりあ、関係機関との連携（気になる高齢者について情報提供） 	
			障がい児・者の情報把握	<ul style="list-style-type: none"> 個人情報の問題があり障がい児・者に関する情報把握が難しい 発達障がい等目に見えない障害についての知識がない 障害者相談支援センターの認知度が低い 障害のある方が何を望まれているかわからず、接し方が難しい 	<ul style="list-style-type: none"> 民児協定例会等での障がいに関する知識提供 状況に応じて障がい者相談支援センターと連携 年4回障がい者支援センター広報誌を回覧、障がい者への接し方等を周知 障がいに関する相談先等に関する情報発信 専門機関につなぐ 日頃の見守り（サロンや町費集金時等の活用） 	<ul style="list-style-type: none"> 公的機関の情報を具体的に伝える 地域の方に対して障害者対応の勉強会（啓発）を行う 校区全体で障がい者支援の登録ボランティアを立ち上げる 歩道や段差の整備ができていない箇所を公的機関に伝える 地域で障害者に対する見守りを継続する
災害に強い帯西の実現	子どもと子育てを応援する帯西	子ども・子育て	子育て家庭への支援	<ul style="list-style-type: none"> 個人情報の問題があり子ども・子育て家庭に関する情報把握が難しい 子育て世帯、未就園児の母子同士の交流の機会が少ない 虐待・引きこもり・いじめ・不登校など外部から見つけることが難しい 通学路の安全性の確保が必要 子育て世代の地域へ求めるニーズが不明 若い親が仕事や子育てのストレスで疲れている 	<ul style="list-style-type: none"> 保健子ども課との連携 毎月1回、地域で子育ての集いを開催 子ども会への加入有無を問わない行事の開催（伝承遊び等） 	<ul style="list-style-type: none"> 子育てのつといの充実と参加への声掛け 子育てのつとい周知にSNSを活用する 茶話会なども企画する 子育ての集いに老人会が協力する 一堂に集うばかりではなく、オンラインサロンなども企画する
			災害時における避難に関すること	<ul style="list-style-type: none"> 避難訓練が十分でなく、大きな災害が起きた時の避難に不安がある 災害時の避難所がどこなのか理解できていない 	<ul style="list-style-type: none"> 自助部分の備蓄の必要性についての啓発 災害時要援護者名簿の活用 指定避難所の周知 	<ul style="list-style-type: none"> 避難誘導消火など具体的な役割分担を地域の中で人選して訓練する 地域での避難訓練を現実起こる可能性の高い事案で実施する 定期的に対象者を変えながら避難訓練を行う ペット避難所の周知
住まいよく住み続けたい帯西の実現	暮らし全般	災害時の体制づくり	<ul style="list-style-type: none"> 自助と共助の意識づけが不足している 家庭内の防災備品や備蓄食料の確保が出来ていない 要配慮者がどこにいるか把握出来ていない 災害時、自治会との連携がまだ不足している 災害時対応のマニュアルが不完全で、避難所運営のスキルも不足している 	<ul style="list-style-type: none"> 校区防災連絡会や避難所運営委員会を定期的開催 年1回校区防災の日を定め避難訓練を実施 自主防災クラブの組織化 災害時要援護者名簿を情報共有のため必要部署で保管 日頃から顔の見える関係づくりの意識醸成 	<ul style="list-style-type: none"> 自治会内で防災意識を共有し、防災活動を活性化する 水や食料などの備蓄（自助の部分）を事あるごとに周知する 避難誘導消火など具体的な役割分担を地域の中で人選して訓練する 災害時マイタイムラインの必要性を啓蒙する アオハトに拡声機能を付加して災害時に利用する 近所の間で誰がどの家に声かけするか決めておく ハザードマップを見直し改めて作成する 	
		環境及び地域団体に関すること	<ul style="list-style-type: none"> ごみ問題（ごみ出しルールが守られていないカラス対策に苦慮） 空き家・空き地が増え防犯上問題である有効活用を考える必要がある 自治会役員のなり手がいない 地域に外国人が増え、いろんなルールを理解できない人が増えている 地域の繋がりが希薄化している 小鳥や野良猫への餌やりをする人がいて困っている 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の人々が集うイベントを積極的に開催 イベントの様子を校区全域に周知（社協だよりに記事、写真） 子ども会等様々な機会を通じて自治会への加入勧奨を図る ゴミ出しルールについてのポスター・看板設置 カラス対策（防鳥ネットの設置） 近隣が協力して小鳥や猫への餌やり禁止を注意喚起 	<ul style="list-style-type: none"> 世代を超えて集える場所を作る 空き家活用について公的機関と連携する 同じゴミステーションを利用する人同士での話し合いを行う ゴミ出しルール徹底の看板増設やシールを活用する 防鳥ネットの他にカラスが嫌う忌避剤を用意する 野良猫対策などは近所同士で話し合うほか、公的機関にも相談する 校区でホームページを立ち上げ、幅広く情報を発信する 	